

調査結果の概要

Ⅱ 内水面漁業調査

(中国四国農政局島根統計情報事務所 編集)

II 内水面漁業調査

A 湖沼漁業に関する統計（団体経営体及び年間湖上作業従事日数 30日以上の個人経営体）

1 漁業経営体

(1) 経営組織別経営体数

図26 経営組織別経営体数の推移(宍道湖)
(経営体)

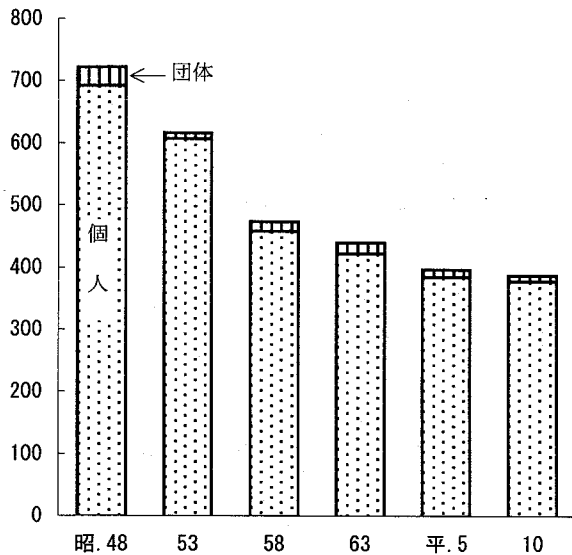
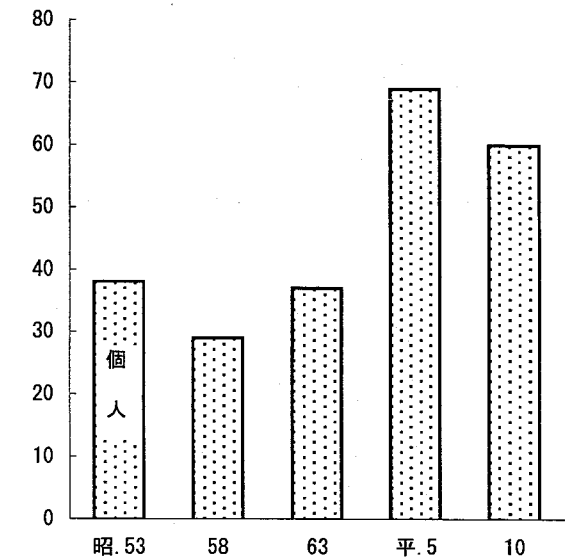


図27 経営組織別経営体数の推移(神西湖)
(経営体)



＝宍道湖の経営体数、ほぼ前回並み＝

経営体数を組織別にみると、宍道湖・神西湖とも個人経営体で占めている。

宍道湖の経営体数は387経営体で前回に比べて9経営体（2.3%）減少した。前回までは大幅な減少を続けていたが、採貝業の漁業管理の徹底等による経営安定効果もあって、ほぼ前回並みにとどまった。

一方、神西湖は前回大幅に増加したが今回は60経営体となり、前回に比べて9経営体（13.0%）減少した。

表27 経営組織別経営体数

単位：経営体・%

区 分		総 数	個 人	会 社	漁 協	生産組合	共同経営	官公庁
宍 道 湖	昭. 48年 (第 5次)	722	692	-	-	1	29	-
	53年 (第 6次)	616	607	-	-	-	9	-
	58年 (第 7次)	473	458	-	-	-	15	-
	63年 (第 8次)	440	422	-	-	-	17	1
	平. 5年 (第 9次)	396	384	-	-	-	12	-
	10年 (第10次)	387	378	-	-	-	9	-
	(構成比)	(100.0)	(97.7)	-	-	-	(2.3)	-
10次-9次 増減数	△ 9	△ 6	-	-	-	△ 3	-	
10次/9次 増減率	△ 2.3	△ 1.6	-	-	-	△ 25.0	-	
神 西 湖	昭. 53年 (第 6次)	38	38	-	-	-	-	-
	58年 (第 7次)	29	29	-	-	-	-	-
	63年 (第 8次)	37	37	-	-	-	-	-
	平. 5年 (第 9次)	69	69	-	-	-	-	-
	10年 (第10次)	60	60	-	-	-	-	-
	(構成比)	(100.0)	(100.0)	-	-	-	-	-
	10次-9次 増減数	△ 9	△ 9	-	-	-	-	-
10次/9次 増減率	△ 13.0	△ 13.0	-	-	-	-	-	

(2) 経営体階層別経営体数

図28 経営体階層別経営体数の推移(宍道湖)

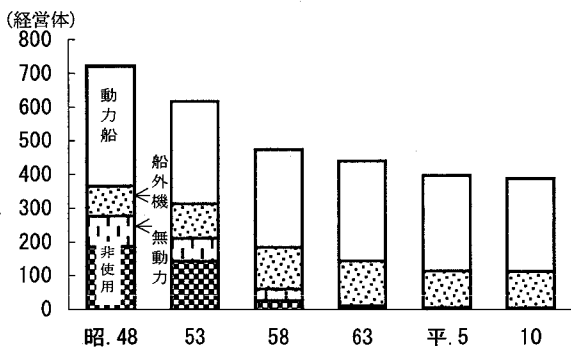


図29 経営体階層別経営体数の推移(神西湖)

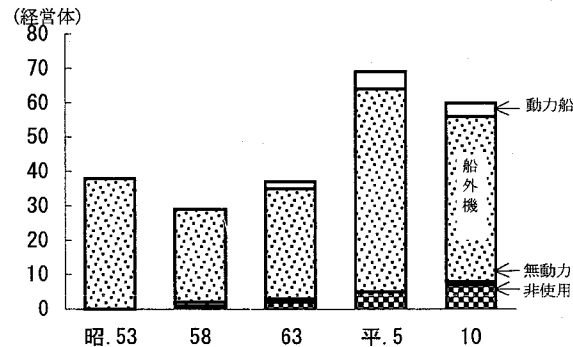


図30 経営体階層別経営体数の割合(宍道湖)

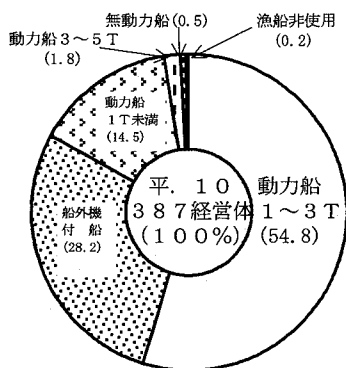
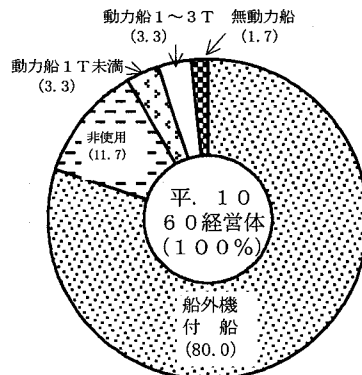


図31 経営体階層別経営体数の割合(神西湖)



＝小規模階層にシフト＝

経営体階層別にみると宍道湖では動力船1～3トン階層で212経営体となり、前回に比べて24経営体（10.2%）減少したが、動力船1トン未満階層では56経営体となり、前回に比べて22経営体（64.7%）増加し、また、船外機付船階層でもわずかに増加した。

これは、採貝・採藻を主とする経営体において主産物の「しじみ」の生息域の変化や、操業方法の改善等によるものである。

一方、神西湖では船外機付船階層が8割を占めているが、前回に比べて11経営体（18.6%）減少した。

表28 経営体階層別経営体数

単位：経営体・%

区分	総数	漁船 非使用	無動力船	船外機 付船	動力船				魚類養殖	真珠養殖	その他 の養殖	
					1 T未満	1～3 T	3～5 T	5 T以上				
宍道湖	昭. 48年 (第5次)	722	185	91	89	131	219	5	-	2	-	-
	53年 (第6次)	616	142	69	102	75	222	6	-	-	-	-
	58年 (第7次)	473	27	34	123	30	234	23	2	-	-	-
	63年 (第8次)	440	4	8	133	44	233	15	2	1	-	-
	平. 5年 (第9次)	396	2	4	107	34	236	8	5	-	-	-
	10年 (第10次)	387	1	2	109	56	212	7	-	-	-	-
	(構成比)	(100.0)	(0.2)	(0.5)	(28.2)	(14.5)	(54.8)	(1.8)	(-)	(-)	(-)	(-)
湖	10次-9次増減数	△ 9	△ 1	△ 2	2	22	△ 24	△ 1	△ 5	-	-	-
	10次/9次増減率	△ 2.3	△ 50.0	△ 50.0	1.9	64.7	△ 10.2	△ 12.5	-	-	-	-
	神西湖	昭. 53年 (第6次)	38	-	-	38	-	-	-	-	-	-
58年 (第7次)		29	1	1	27	-	-	-	-	-	-	-
63年 (第8次)		37	2	1	32	1	1	-	-	-	-	-
平. 5年 (第9次)		69	5	-	59	3	2	-	-	-	-	-
10年 (第10次)		60	7	1	48	2	2	-	-	-	-	-
(構成比)		(100.0)	(11.7)	(1.7)	(80.0)	(3.3)	(3.3)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
湖		10次-9次増減数	△ 9	2	1	△ 11	△ 1	0	-	-	-	-
	10次/9次増減率	△ 13.0	40.0	-	△ 18.6	△ 33.3	0.0	-	-	-	-	-

(3) 主とする漁業種類別経営体数

図32 主とする漁業種類別経営体数の構成(宍道湖)

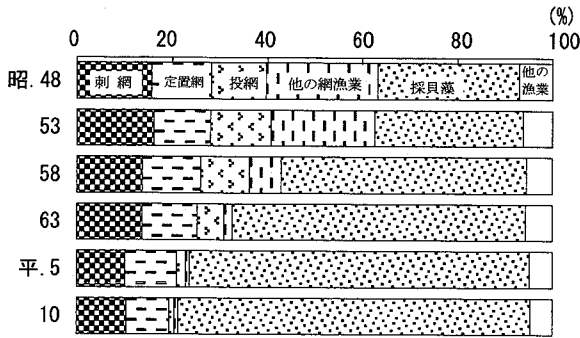


図33 主とする漁業種類別経営体数の構成(神西湖)

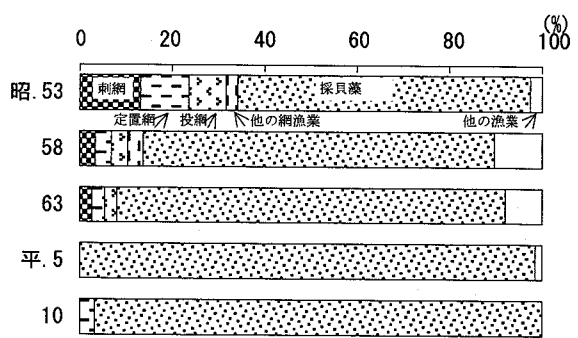


図34 主とする漁業種類別経営体数の割合(宍道湖)

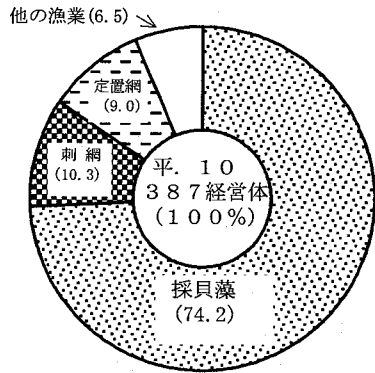
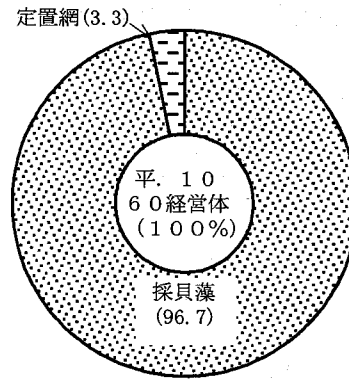


図35 主とする漁業種類別経営体数の割合(神西湖)



＝宍道湖・神西湖とも採貝・採藻が主体＝

主とする漁業種類別にみると、採貝・採藻を主とする経営体が宍道湖で287経営体、神西湖では58経営体となり、いずれも74.2%、96.7%と高い割合を占めている。

また、網漁業はほとんどが宍道湖で営まれており、前回に比べて刺網は変わらないが、定置網は35経営体で8経営体(18.6%)、投網は4経営体で3経営体(42.9%)それぞれ減少している。

表29 主とする漁業種類別経営体数

単位：経営体・%

区分	総数	網漁業						釣 はえ縄	採 貝 藻	かご類・ その他の 漁業	養殖
		刺網	敷網	定置網	投網	他の網漁業					
宍道湖	昭. 48年(第5次)	722	113	6	90	83	163	5	216	44	2
	53年(第6次)	616	99	1	73	79	132	7	194	31	-
	58年(第7次)	473	64	1	59	48	30	3	245	23	-
	63年(第8次)	440	60	-	51	25	7	3	272	21	1
	平. 5年(第9次)	396	40	1	43	7	2	2	284	17	-
	10年(第10次)	387	40	-	35	4	3	7	287	11	-
	(構成比)	(100.0)	(10.3)	-	(9.0)	(1.0)	(0.8)	(1.8)	(74.2)	(2.9)	-
	10次-9次 増減数	△ 9	0	△ 1	△ 8	△ 3	1	5	3	△ 6	-
	10次/9次 増減率	△ 2.3	0.0	-△ 18.6	△ 42.9	50.0	250.0	1.1	△ 35.3	-	-
神西湖	昭. 53年(第6次)	38	5	-	4	3	1	-	24	1	-
	58年(第7次)	29	1	-	1	1	1	1	22	2	-
	63年(第8次)	37	1	-	1	1	-	-	31	3	-
	平. 5年(第9次)	69	-	-	-	-	-	-	68	1	-
	10年(第10次)	60	-	-	2	-	-	-	58	-	-
		(構成比)	(100.0)	-	-	(3.3)	-	-	-	(96.7)	-
	10次-9次 増減数	△ 9	-	-	2	-	-	-	-	△ 1	-
	10次/9次 増減率	△ 13.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(4) 主な漁獲魚種別経営体数

図36 主な漁獲魚種別経営体数の構成(宍道湖)

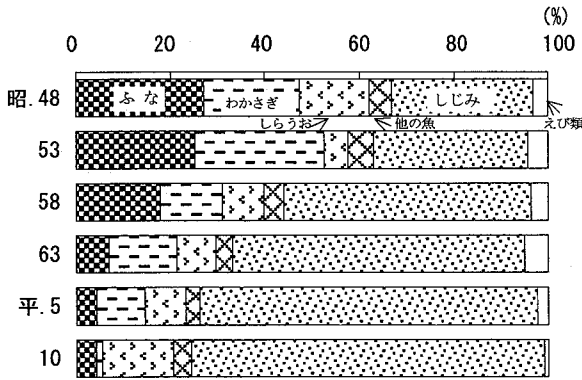


図38 主な漁獲魚種別経営体数の割合(宍道湖)

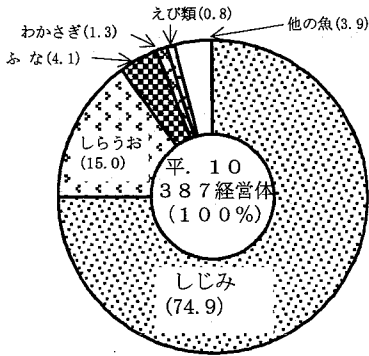


図37 主な漁獲魚種別経営体数の構成(神西湖)

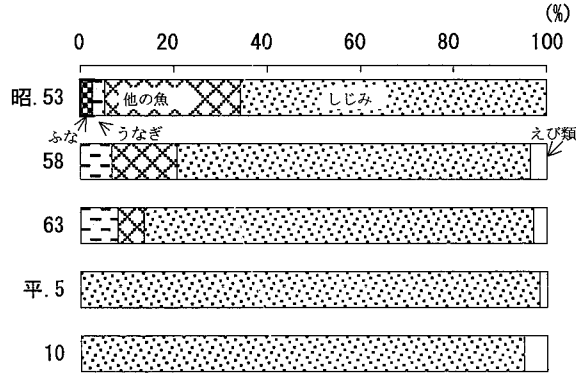
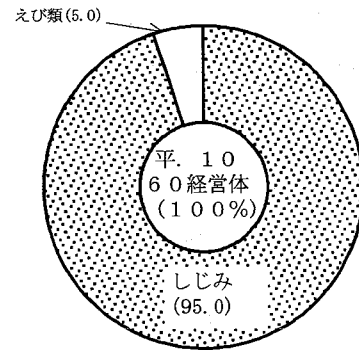


図39 主な漁獲魚種別経営体数の割合(神西湖)



＝しじみ安定、わかさぎ大幅減少＝

主な漁獲魚種別をみると、宍道湖ではしじみが290経営体で、前回に比べて6経営体（2.1%）増加し全体の74.9%を占めている。次いでしらうおが58経営体で23経営体（65.7%）増加した。前回2番目に多かったわかさぎは5経営体となり35経営体（87.5%）と大幅に減少した。

一方、神西湖では前回同様しじみを主とする経営体がほとんどを占めており、両湖とも島根産しじみの名声を支えている。

表30 主な漁獲魚種別経営体数

単位：経営体・%

区分	総数	魚類									貝類 (しじみ)	水産動物 (えび類等)
		こい	ふな	あゆ	わかさぎ	しらうお	うなぎ	はぜ類	その他			
宍道湖	昭. 48年 (第5次)	722	5	195	2	147	106	25	2	-	217	23
	53年 (第6次)	616	6	155	2	168	32	15	4	6	201	27
	58年 (第7次)	473	5	84	-	62	42	11	2	3	247	17
	63年 (第8次)	440	8	30	1	63	37	5	-	2	272	22
	平. 5年 (第9次)	396	-	17	1	40	35	7	1	2	284	9
10年 (第10次)	387	1	16	-	5	58	10	1	3	290	3	
(構成比)	(100.0)	(0.3)	(4.1)	-	(1.3)	(15.0)	(2.6)	(0.2)	(0.8)	(74.9)	(0.8)	
10次-9次 増減数	△ 9	1	△ 1	△ 1	△ 35	23	3	0	1	6	△ 6	
10次/9次 増減率	△ 2.3	-	△ 5.9	-	△ 87.5	65.7	42.9	0.0	50.0	2.1	△ 66.7	
神西湖	昭. 53年 (第6次)	38	-	1	-	-	-	1	-	11	25	-
	58年 (第7次)	29	-	-	-	-	-	2	-	4	22	1
	63年 (第8次)	37	-	-	-	-	-	3	-	2	31	1
	平. 5年 (第9次)	69	-	-	-	-	-	-	-	-	68	1
	10年 (第10次)	60	-	-	-	-	-	-	-	-	57	3
(構成比)	(100.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	(95.0)	(5.0)	
10次-9次 増減数	△ 9	-	-	-	-	-	-	-	-	△ 11	2	
10次/9次 増減率	△ 13.0	-	-	-	-	-	-	-	-	△ 16.2	200.0	

(5) 湖上作業従事日数別経営体数

図40 湖上作業従事日数別経営体数の構成(宍道湖)

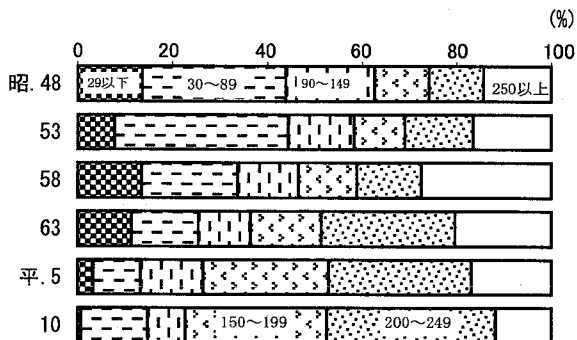


図41 湖上作業従事日数別経営体数の構成(神西湖)

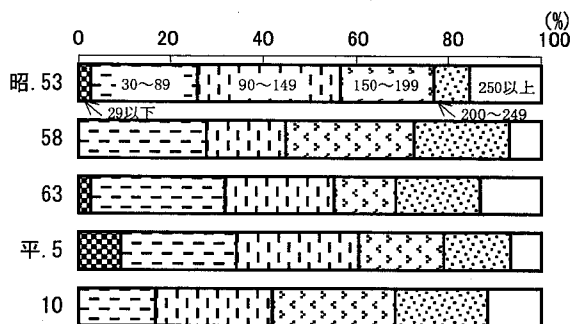


図42 湖上作業従事日数別経営体数の割合(宍道湖)

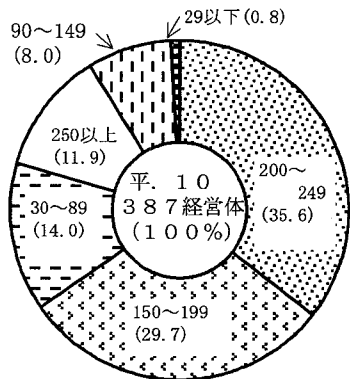
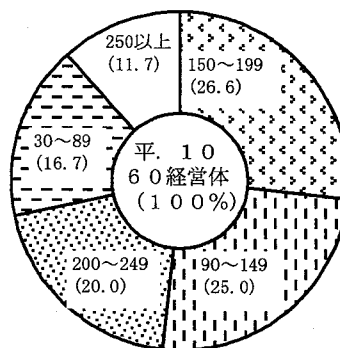


図43 湖上作業従事日数別経営体数の割合(神西湖)



＝宍道湖では200～249日階層、神西湖では150～199日階層が上位＝

湖上作業従事日数別にみると、宍道湖では200～249日階層が138経営体、150～199日階層が115経営体となっており、この2階層で全体の65.3%と大半を占めている。次いで30～89日階層、250日以上階層の順となっている。

一方、神西湖では150～199日階層が16経営体、90～149日階層が15経営体となりこの2階層で全体の51.6%となり、宍道湖に比べて従事日数の少ない経営体の割合が高くなっている。

表31 湖上作業従事日数別経営体数

単位：経営体・%

区 分	総 数	29日以下	30～89日	90～149日	150～199日	200～249日	250日以上	
宍道湖	昭. 48年 (第5次)	835	113	252	158	96	120	
	53年 (第6次)	667	51	244	94	71	111	
	58年 (第7次)	545	73	110	71	67	150	
	63年 (第8次)	492	56	69	54	74	100	
	平. 5年 (第9次)	405	13	40	54	107	69	
	10年 (第10次)	387	3	54	31	115	46	
	(構成比)	(100.0)	(0.8)	(14.0)	(8.0)	(29.7)	(35.6)	(11.9)
	10次-9次 増減数	△ 18	△ 10	14	△ 23	8	16	△ 23
	10次/9次 増減率	△ 4.4	△ 76.9	35.0	△ 42.6	7.5	13.1	△ 33.3
	神西湖	昭. 53年 (第6次)	39	1	9	12	8	6
58年 (第7次)		29	-	8	5	8	2	
63年 (第8次)		38	1	11	9	5	5	
平. 5年 (第9次)		76	7	19	20	14	5	
10年 (第10次)		60	-	10	15	16	7	
(構成比)		(100.0)	-	(16.7)	(25.0)	(26.6)	(20.0)	(11.7)
10次-9次 増減数		△ 16	△ 7	△ 9	△ 5	2	1	2
10次/9次 増減率		△ 21.1	-	△ 47.4	△ 25.0	14.3	9.1	40.0

(6) 販売金額別経営体数

図44 販売金額別経営体数の推移(宍道湖)

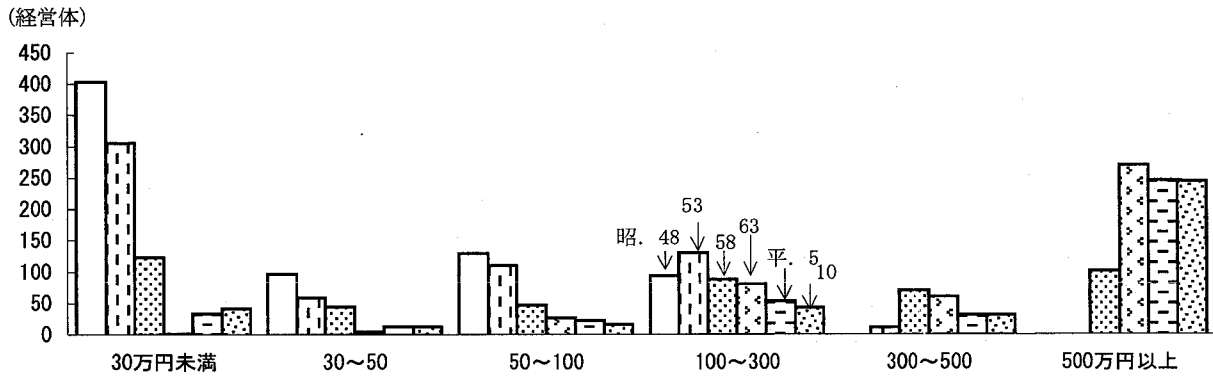
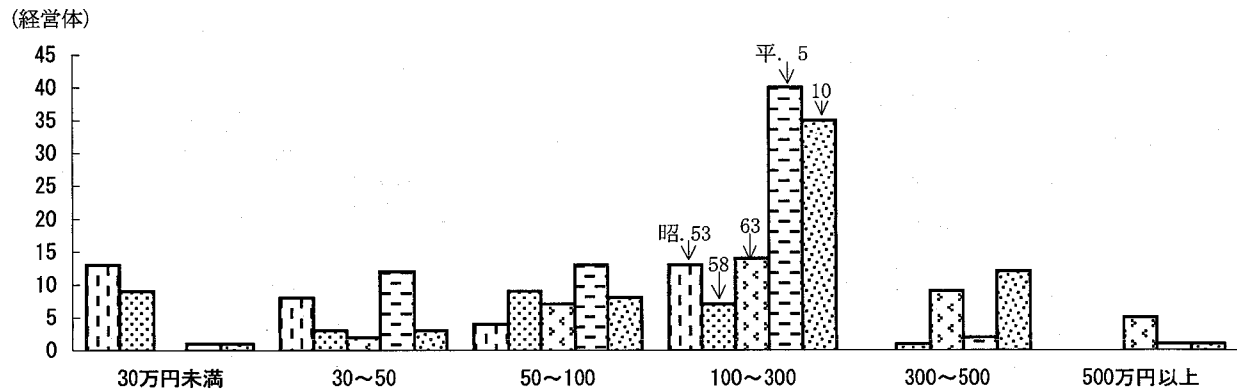


図45 販売金額別経営体数の推移(神西湖)



＝宍道湖では500万円以上階層が6割，神西湖では300～500万円階層が伸びる＝

販売金額別にみると，宍道湖では500万円以上階層が244経営体（構成比63.1%）と前回同様全体の6割を占め，次いで100～300万円階層が43経営体（同11.1%），300～500万円階層が30経営体（同7.8%）の順となっている。

一方，神西湖では100～300万円階層が35経営体（同58.3%），次いで300～500万円階層が12経営体（同20.0%）で，前回に比べて10経営体の増加となっている。

表32 販売金額別経営体数

単位：経営体・%

区 分	総 数	販 売 な し	10万円 未 満	10～30	30～50	50～100	100～200	200～300	300～500	500万円 以 上	
宍 道 湖	昭. 48年 (第 5次)	722	260		143	97	129	87	6		
	53年 (第 6次)	616	17	203	86	59	110	85	45	11	
	58年 (第 7次)	473	23	100		45	47	46	41	70	
	63年 (第 8次)	440	1	-	-	4	26	80		60	
	平. 5年 (第 9次)	396	-	22	12	12	22	53		30	
	10年 (第10次)	387	9	14	19	12	16	43		30	
	(構成比)	(100.0)	(2.3)	(3.6)	(4.9)	(3.1)	(4.1)	(11.1)		(7.8)	(63.1)
	10次-9次 増減数	△ 9	9	△ 8	7	0	△ 6	△ 10		0	△ 1
	10次/9次 増減率	△ 2.3	-	△ 36.4	58.3	0.0	△ 27.3	△ 18.9		0.0	△ 0.4
	神 西 湖	昭. 53年 (第 6次)	38	-	2	11	8	4	11	2	-
58年 (第 7次)		29	-	9		3	9	5	2	1	
63年 (第 8次)		37	-	-	-	2	7	14		9	
平. 5年 (第 9次)		69	-	-	1	12	13	40		2	
10年 (第10次)		60	-	1	-	3	8	35		12	
(構成比)		(100.0)	-	(1.7)	-	(5.0)	(13.3)	(58.3)		(20.0)	(1.7)
10次-9次 増減数		△ 9	-	1	△ 1	△ 9	△ 5	△ 5		10	0
10次/9次 増減率	△ 13.0	-	-	-	△ 75.0	△ 38.5	△ 12.5		500.0	0.0	

2 個人漁業経営体

(1) 専業業別・主とする兼業種類別個人経営体数

図46 専業別・主とする兼業種類別個人経営体数の推移

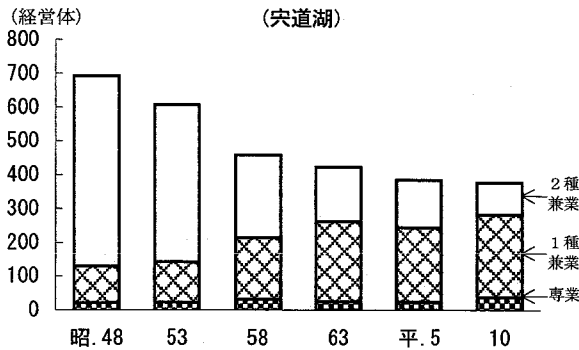


図47 専業別・主とする兼業種類別個人経営体数の推移

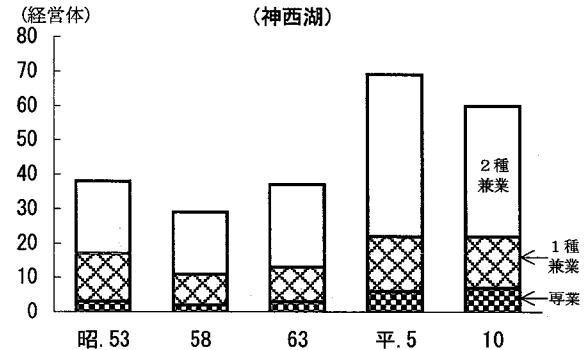


図48 専業別・主とする兼業種類別個人経営体数の構成

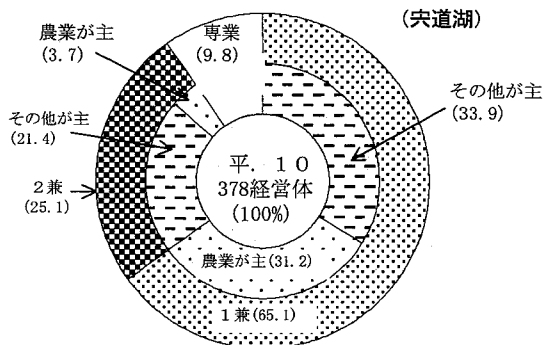
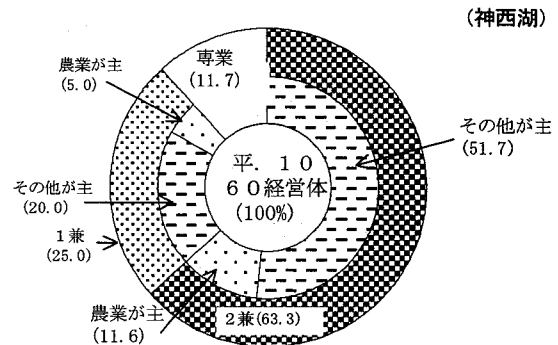


図49 専業別・主とする兼業種類別個人経営体数の構成



＝央道湖では主業化進む、神西湖では兼業経営体が主＝

個人漁業経営体を専業業別にみると、央道湖では専業が37経営体（構成比9.8%）で前回に比べて12経営体増加し、第1種兼業は246経営体（同65.1%）で前回に比べて27経営体増加してともに前回を上回った。この結果、経営体として主業のウエイトがより高くなった。

一方、神西湖は主体である第2種兼業が38経営体（同63.3%）で前回に比べて9経営体減少したが、専業及び第1種兼業はほぼ前回並みであった。

表33 専業業別・主とする兼業種類別個人経営体数

単位：経営体・%

区 分	総 数	専 業	兼 業						
			第 1 種 兼 業			第 2 種 兼 業			
			小 計	農 業	そ の 他	小 計	農 業	そ の 他	
央 道 湖	昭. 48年 (第 5次)	692	21	107	72	35	564	426	138
	53年 (第 6次)	607	23	120	89	31	464	279	185
	58年 (第 7次)	458	32	182	154	28	244	108	136
	63年 (第 8次)	422	25	237	133	104	160	37	123
	平. 5年 (第 9次)	384	25	219	87	132	140	24	116
	10年 (第10次)	378	37	246	118	128	95	14	81
	(構成比)	(100.0)	(9.8)	(65.1)	(31.2)	(33.9)	(25.1)	(3.7)	(21.4)
10次-9次 増減数	△ 6	12	27	31	△ 4	△ 45	△ 10	△ 35	
10次/9次 増減率	△ 1.6	48.0	12.3	35.6	△ 3.0	△ 32.1	△ 41.7	△ 30.2	
神 西 湖	昭. 53年 (第 6次)	38	3	14	8	6	21	5	16
	58年 (第 7次)	29	2	9	7	2	18	4	14
	63年 (第 8次)	37	3	10	3	7	24	3	21
	平. 5年 (第 9次)	69	6	16	1	15	47	13	34
	10年 (第10次)	60	7	15	3	12	38	7	31
	(構成比)	(100.0)	(11.7)	(25.0)	(5.0)	(20.0)	(63.3)	(11.6)	(51.7)
	10次-9次 増減数	△ 9	1	△ 1	2	△ 3	△ 9	△ 6	△ 3
10次/9次 増減率	△ 13.0	16.7	△ 6.3	200.0	△ 20.0	△ 19.1	△ 46.2	△ 8.8	

3 漁業就業者

(1) 専業別・主とする就業区分別漁業就業者数

図50 専業別・主とする就業区分別就業者数の推移 (宍道湖)

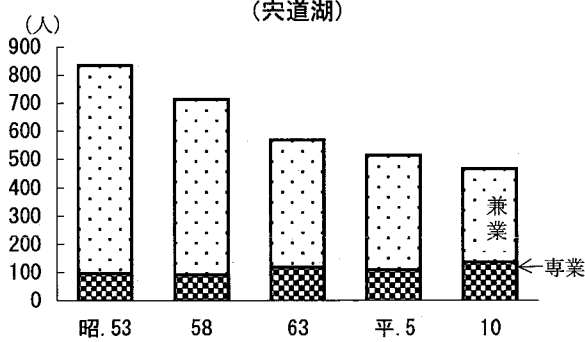


図51 専業別・主とする就業区分別就業者数の推移 (神西湖)

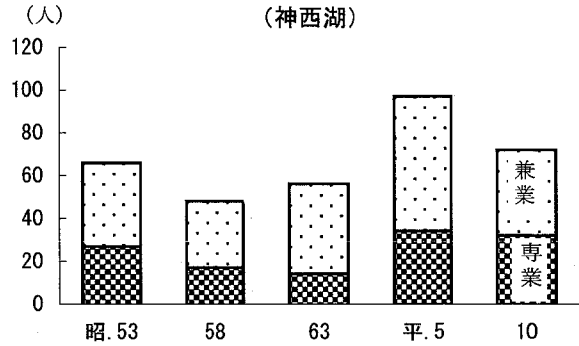


図52 男女別・主とする就業区分別就業者数の構成 (宍道湖)

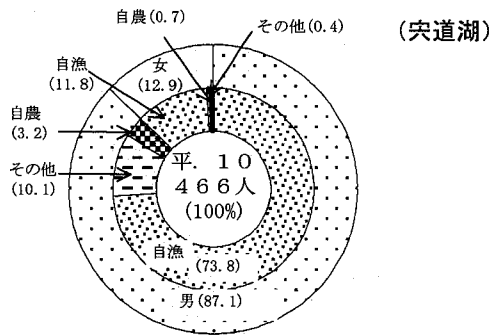
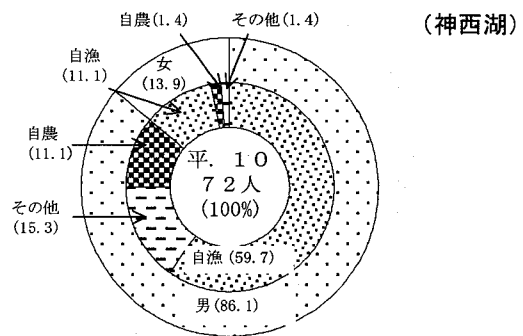


図53 男女別・主とする就業区分別就業者数の構成 (神西湖)



＝宍道湖では専業就業者が増加＝

漁業就業者数は、宍道湖では466人で前回から48人(9.3%)減少した。これを専業別でみると専業は137人で前回に比べて28人(25.7%)増加した。また兼業は329人で、前回より76人(18.8%)減少した。

一方、神西湖では72人で前回から25人(25.8%)減少した。これを専業別でみると専業は32人で前回に比べて2人(5.9%)減少し、兼業は40人で前回より23人(36.5%)減少した。

なお、宍道湖、神西湖とも男女別の就業割合は男性が86～87%と同じような結果になっている。

表34 専業別・主とする就業区分別漁業就業者数

単位：人・%

区分	総数	専業別		主とする就業区分別								
		専業	兼業	男			女					
				計	自営漁業	自営農業	その他	計	自営漁業	自営農業	その他	
宍道湖	昭.53年(第6次)	835	95	740	662	251	269	142	173	73	90	10
	58年(第7次)	713	90	623	508	291	107	110	205	69	116	20
	63年(第8次)	570	119	451	466	356	49	61	104	79	18	7
	平.5年(第9次)	514	109	405	426	327	34	65	88	67	18	3
	10年(第10次)	466	137	329	406	344	15	47	60	55	3	2
	(構成比)	(100.0)	(29.4)	(70.6)	(87.1)	(73.8)	(3.2)	(10.1)	(12.9)	(11.8)	(0.7)	(0.4)
	10次-9次増減数	△48	28	△76	△20	17	△19	△18	△28	△12	△15	△1
	10次/9次増減率	△9.3	25.7	△18.8	△4.7	5.2	△55.9	△27.7	△31.8	△17.9	△83.3	△33.3
神西湖	昭.53年(第6次)	66	27	39	45	25	6	14	21	17	3	1
	58年(第7次)	48	17	31	31	17	4	10	17	11	4	2
	63年(第8次)	56	14	42	41	22	5	14	15	7	6	2
	平.5年(第9次)	97	34	63	74	42	13	19	23	14	6	3
	10年(第10次)	72	32	40	62	43	8	11	10	8	1	1
	(構成比)	(100.0)	(44.4)	(55.6)	(86.1)	(59.7)	(11.1)	(15.3)	(13.9)	(11.1)	(1.4)	(1.4)
	10次-9次増減数	△25	△2	△23	△12	1	△5	△8	△13	△6	△5	△2
	10次/9次増減率	△25.8	△5.9	△36.5	△16.2	2.4	△38.5	△42.1	△56.5	△42.9	△83.3	△66.7

4 保有漁船

(1) 保有漁船種類別隻数・トン数

図54 動力船隻数と平均トン数の推移(宍道湖)

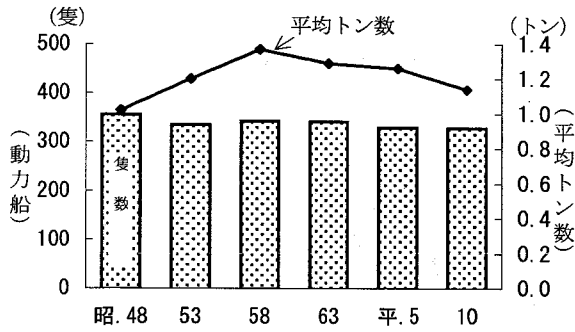


図55 動力船隻数と平均トン数の推移(神西湖)

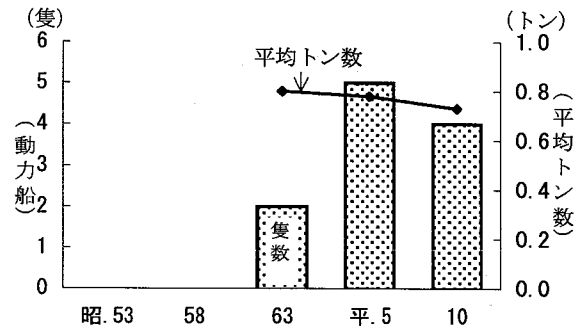


図56 漁船隻数の推移(宍道湖)

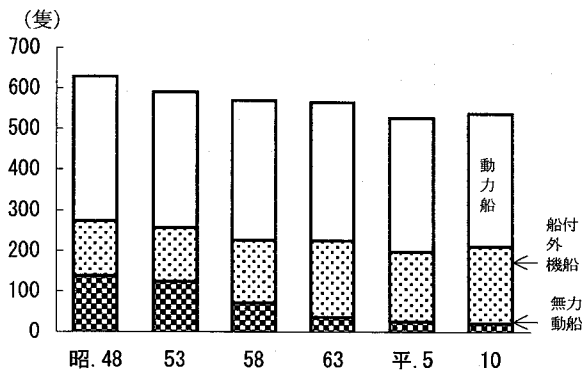
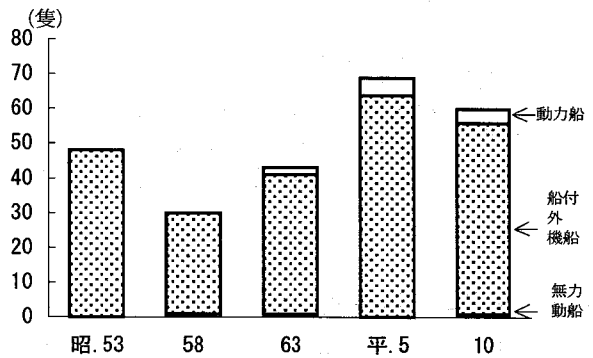


図57 漁船隻数の推移(神西湖)



＝宍道湖の動力船小型化＝

漁船数を種類別にみると、宍道湖では動力船は前回並みの328隻、船外機付船は188隻で、前回より16隻増加した。また、無動力船は22隻で4隻減少し、総隻数は538隻で前回に比べて11隻増加した。動力船の平均トン数をみると1.14トンで前回の1.26トンに比べて小型化している。

一方、神西湖では船外機付船が55隻で9隻減少したものの、総隻数の9割を占めている。

表35 保有漁船種類別隻数・トン数

単位：隻・トン・%

区分	総隻数	無動力船	船外機付船	動力船			
				隻数	合計トン数	平均トン数	
宍道湖	昭. 48年 (第5次)	137	136	355	363.07	1.02	
	53年 (第6次)	123	134	334	400.57	1.20	
	58年 (第7次)	72	155	343	471.32	1.37	
	63年 (第8次)	36	189	341	440.70	1.29	
	平. 5年 (第9次)	26	172	329	413.95	1.26	
	10年 (第10次)	22	188	328	375.47	1.14	
	(構成比)	(100.0)	(4.1)	(34.9)	(61.0)	-	-
10次-9次 増減数	11	△ 4	16	△ 1	△ 38.48	△ 0.12	
10次/9次 増減率	2.1	△ 15.4	9.3	△ 0.3	△ 9.3	△ 9.5	
神西湖	昭. 53年 (第6次)	-	48	-	-	-	
	58年 (第7次)	1	29	-	-	-	
	63年 (第8次)	1	40	2	1.90	0.80	
	平. 5年 (第9次)	-	64	5	3.90	0.78	
	10年 (第10次)	1	55	4	2.90	0.73	
	(構成比)	(100.0)	(1.7)	(91.6)	(6.7)	-	-
	10次-9次 増減数	△ 9	1	△ 9	△ 1	△ 1.00	△ 0.05
10次/9次 増減率	△ 13.0	-	△ 14.1	△ 20.0	△ 25.6	△ 6.4	

B 内水面養殖業に関する統計

1 養殖業経営体

(1) 経営組織別経営体数

図58 経営組織別経営体数の推移

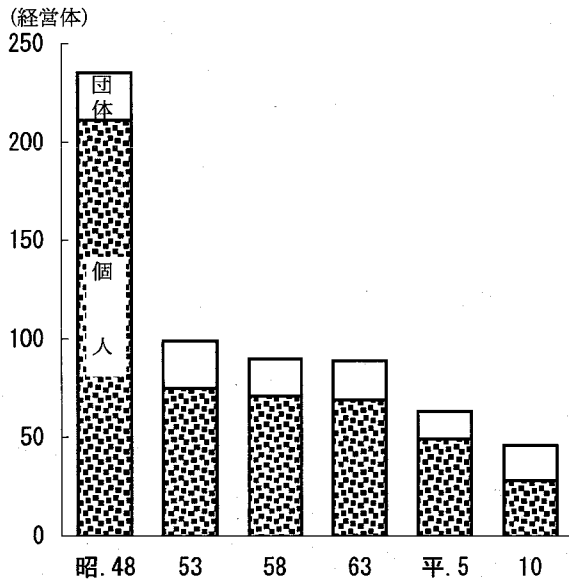
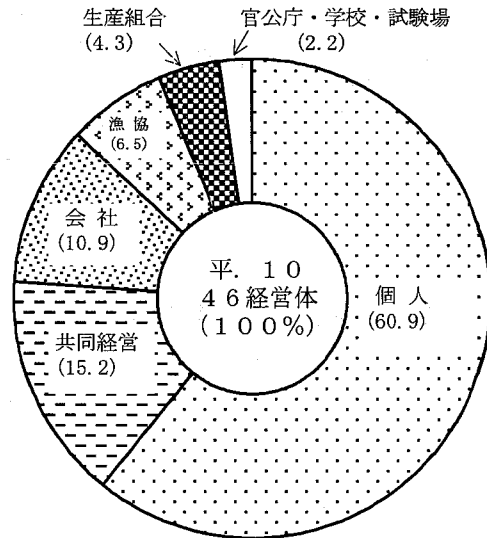


図59 経営組織別構成割合



＝個人経営体の減少続く＝

内水面養殖業経営体数は、46経営体となり前回に比べて17経営体（27.0%）減少した。

これを、経営組織別にみると個人が28経営体、次いで共同経営が7経営体、会社経営が5経営体の順となっている。

なお、昭. 48～53年の大幅な減少は養殖の技術的な難しさと、養殖業をとりまく経済状況の変化に対して、こい養殖を主とする小規模な経営体が存続しきれなかったためと思われる。

団体経営体は、大きな動きはないが個人経営体は、減少の一途をたどっており、第8次センサス（昭. 63年）時のほぼ半数となった。

表36 経営組織別経営体数

単位：経営体・%

	総数	個人	会社	漁業協同組合	漁業生産組合	共同経営	官公庁 学校 試験場
昭. 48年 (第5次)	235	211	8	1	-	10	5
53年 (第6次)	99	75	3	4	5	9	3
58年 (第7次)	90	71	3	2	4	6	4
63年 (第8次)	89	69	5	4	1	8	2
平. 5年 (第9次)	63	49	3	2	1	6	2
10年 (第10次)	46	28	5	3	2	7	1
(構成比)	(100.0)	(60.9)	(10.9)	(6.5)	(4.3)	(15.2)	(2.2)
10次-9次 増減数	△ 17	△ 21	2	1	1	1	△ 1
10次/9次 増減率	△ 27.0	△ 42.9	66.7	50.0	100.0	16.7	△ 50.0

(2) 主とする養殖方法別経営体数

図60 養殖方法別経営体数の推移

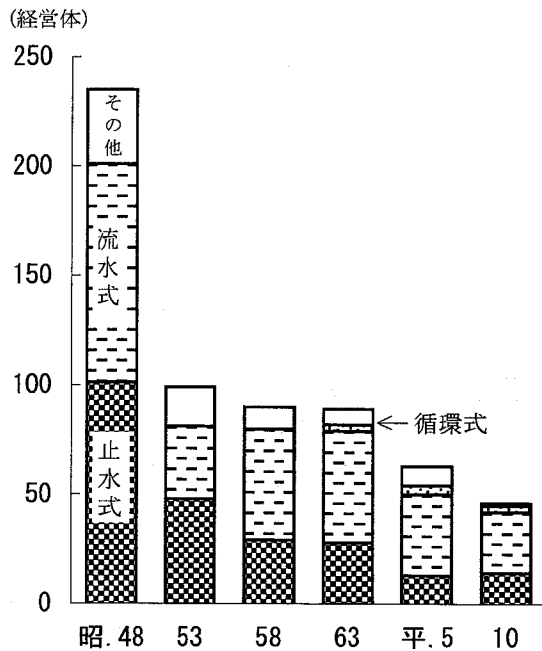
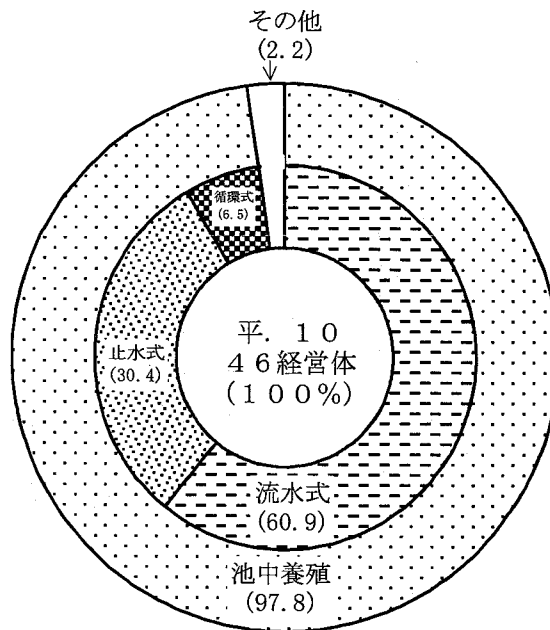


図61 養殖方法別経営体数の割合



＝ほとんどが効率のよい池中養殖に＝

主とする養殖方法別にみると、流水式池中養殖が最も多く28経営体、次いで止水式池中養殖が14経営体、循環式池中養殖が3経営体の順となっている。

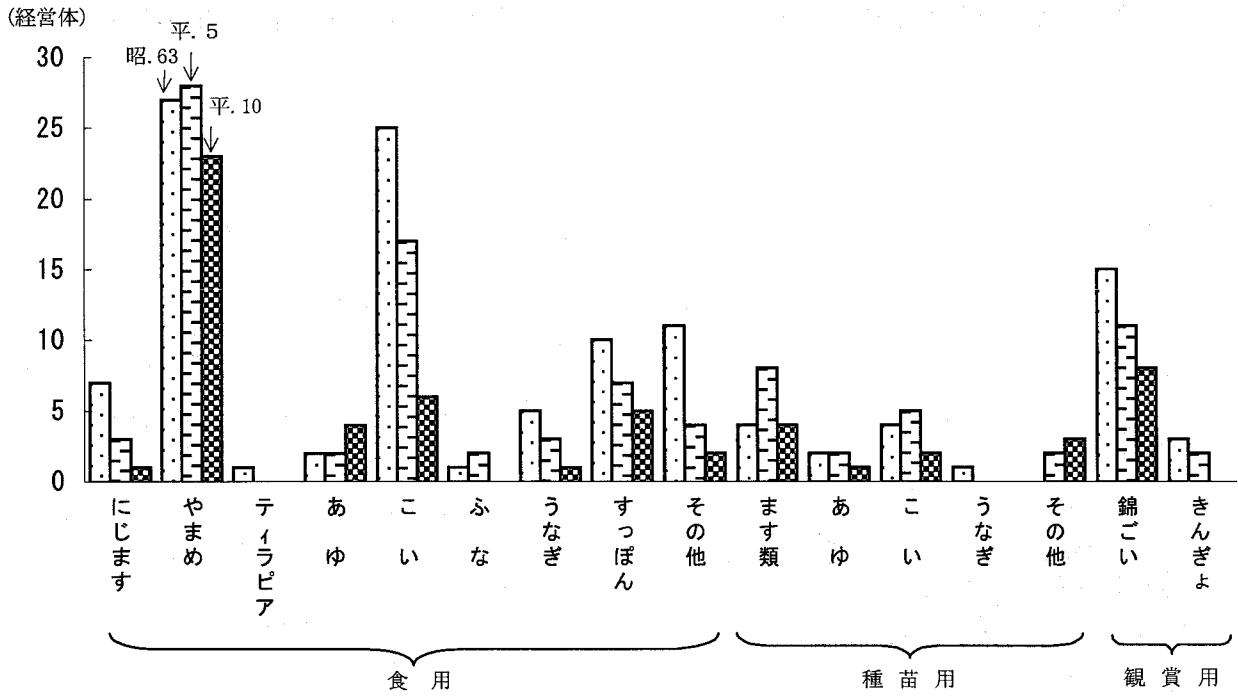
また、ため池養殖は前回の8経営体から大きく減少して1経営体となった。

表37 主とする養殖種類別経営体数

区 分	総 数	池 中 養 殖			ため池養殖	網いけす養殖 その他の養殖
		止 水 式	流 水 式	循 環 式		
昭. 48年 (第 5次)	235	101	100	...	34	-
53年 (第 6次)	99	48	33	...	17	1
58年 (第 7次)	90	29	51	...	10	-
63年 (第 8次)	89	28	51	3	6	1
平. 5年 (第 9次)	63	13	37	4	8	1
10年 (第10次)	46	14	28	3	1	-
(構 成 比)	(100.0)	(30.4)	(60.9)	(6.5)	(2.2)	-
10次-9次 増減数	△ 17	1	△ 9	△ 1	△ 7	△ 1
10次/9次 増減率	△ 27.0	7.7	△ 24.3	△ 25.0	△ 87.5	-

(3) 養殖種類別経営体数(延数)

図62 養殖種類別経営体数(延数)



＝やまめ養殖が半数を占める＝

養殖種類別にみると、食用は38経営体で前回に比べて17経営体(30.9%)減少、種苗用は6経営体で前回に比べて8経営体(57.1%)減少、観賞用は8経営体で前回に比べて3経営体(27.3%)減少した。

これを魚種別にみると、食用ます類のやまめが最も多く23経営体で半数の経営体が養殖している。次いで観賞用のこいが8経営体、食用のこいが6経営体の順となっている。

表38 養殖種類別経営体数(延数)

単位：経営体・%

区分	食 用											
	総数 (実数)	小計 (実数)	ます類			ティラピア	あゆ	こい	ふな	うなぎ	すっぽん	
			にじます	やまめ	その他							
昭.48年(第5次)	235	...	15			-	3	102	5	27	49	
53年(第6次)	99	72	7	5	1	1	3	11	1	26	6	
58年(第7次)	90	75	5	22	3	1	4	27	-	14	10	
63年(第8次)	89	75	7	27	-	1	2	25	1	5	10	
平.5年(第9次)	63	55	3	28	-	-	2	17	2	3	7	
10年(第10次)	46	38	1	23	-	-	4	6	-	1	5	
10次-9次 増減数	△17	△17	△2	△5	-	-	2	△11	△2	△2	△2	
10次/9次 増減率	△27.0	△30.9	△66.7	△17.9	-	-	100.0	△64.7	-	△66.7	△28.6	

	食 用		種 苗 用					観 賞 用			
	その他	小計 (実数)	ます類	あゆ	こい	うなぎ	その他	小計 (実数)	錦ごい	きんぎょ	その他
昭.48年(第5次)	-	...	5	-	15	-	15	...	107	10	1
53年(第6次)	3	11	2	2	8	-	1	36	34	5	-
58年(第7次)	1	13	5	3	7	-	3	18	17	3	-
63年(第8次)	11	7	4	2	4	1	-	17	15	3	-
平.5年(第9次)	4	14	8	2	5	-	2	11	11	2	-
10年(第10次)	2	6	4	1	2	-	3	8	8	-	-
10次-9次 増減数	△2	△8	△4	△1	△3	-	1	△3	△3	△2	-
10次/9次 増減率	△50.0	△57.1	△50.0	△50.0	△60.0	-	50.0	△27.3	△27.3	-	-

(4) 販売金額別経営体数

図63 販売金額別経営体数の推移

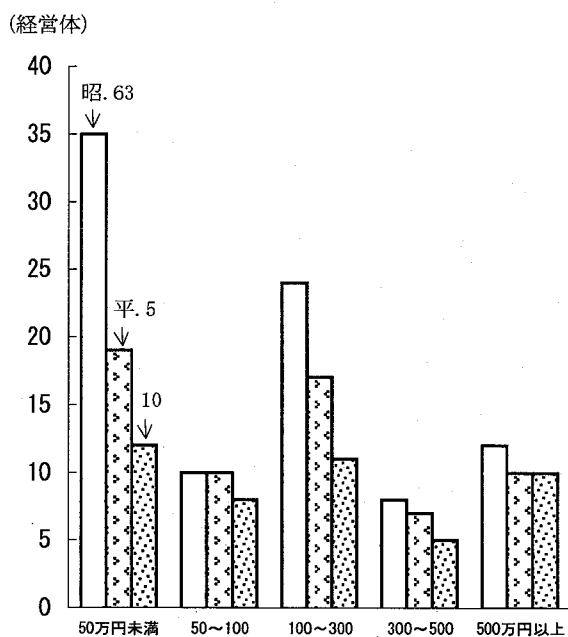
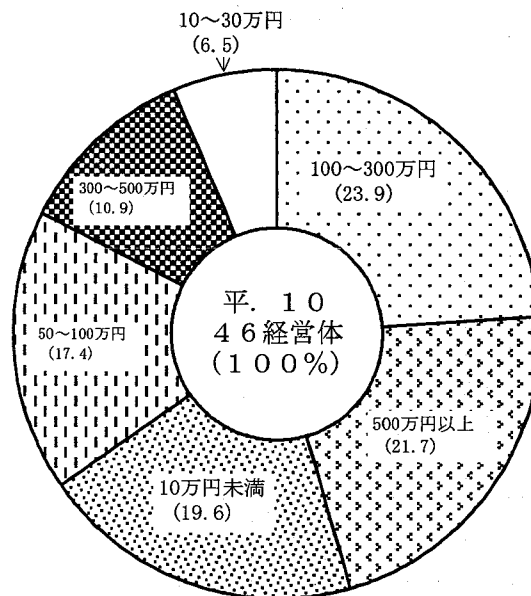


図64 販売金額別構成割合



＝販売金額500万円以上階層は前回並み＝

販売金額別にみると、100～300万円階層が11経営体（構成比23.9%）で最も多く、次いで500万円以上階層が10経営体（同21.7%）となっている。

これを前回と比べてみると500万円以上階層は前回並みであるが、そのほかの階層はすべて減少している。

表39 販売金額別経営体数

単位：経営体・%

区分	総数	10万円未満	10~30	30~50	50~100	100~300	300~500	500万円以上
昭. 48年 (第5次)	235	133	25	17	18	32	5	5
53年 (第6次)	99	33		5	11	28	12	10
58年 (第7次)	90	40			8	24	10	8
63年 (第8次)	89	27	8	-	10	24	8	12
平. 5年 (第9次)	63	14	4	1	10	17	7	10
10年 (第10次)	46	9	3	-	8	11	5	10
(構成比)	(100.0)	(19.6)	(6.5)	-	(17.4)	(23.9)	(10.9)	(21.7)
10次-9次 増減数	△ 17	△ 5	△ 1	△ 1	△ 2	△ 6	△ 2	0
10次/9次 増減率	△ 27.0	△ 35.7	△ 25.0	-	△ 20.0	△ 35.3	△ 28.6	0.0

2 個人養殖業経営体

(1) 専兼業別・主とする兼業種類別個人養殖業経営体数

図65 専兼別個人養殖経営体数の推移

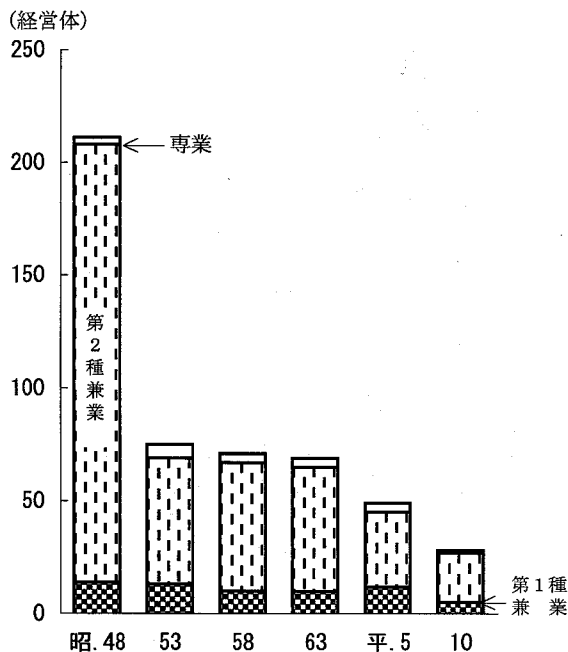
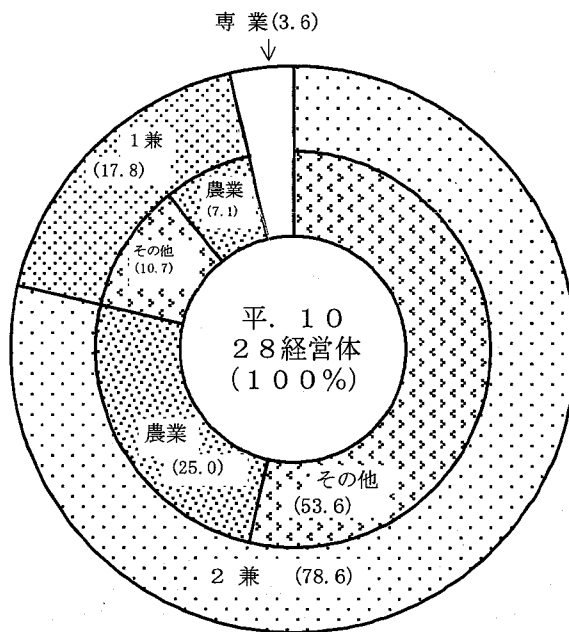


図66 専兼別個人養殖経営体数の割合



＝養殖を主とする経営体が減少＝

個人経営体を専兼業別にみると専業は1経営体で前回に比べ3経営体(75.0%)減少, 第1種兼業は5経営体で前回に比べ7経営体(58.3%)減少, 第2種兼業は22経営体で前回に比べて11経営体(33.3%)減少した。

また, 兼業の内訳をみると, 第1種兼業では農業との兼業が4割, 第2種兼業では3割となっている。

表40 専兼業別・主とする兼業種類別個人養殖業経営体数

単位：経営体・%

区分	総数	専業	第1種兼業			第2種兼業		
			計	農業	その他	計	農業	その他
昭. 48年(第5次)	211	3	14	5	9	194	118	76
53年(第6次)	75	6	13	11	2	56	21	35
58年(第7次)	71	4	10	4	6	57	21	36
63年(第8次)	69	4	10	1	9	55	10	45
平. 5年(第9次)	49	4	12	5	7	33	7	26
10年(第10次)	28	1	5	2	3	22	7	15
(構成比)	(100.0)	(3.6)	(17.8)	(7.1)	(10.7)	(78.6)	(25.0)	(53.6)
10次-9次 増減数	△ 21	△ 3	△ 7	△ 3	△ 4	△ 11	0	△ 11
10次/9次 増減率	△ 42.9	△ 75.0	△ 58.3	△ 60.0	△ 57.1	△ 33.3	0.0	△ 42.3

3 養殖業就業者

(1) 専兼業別・主とする就業区分別養殖業就業者数

図67 専兼業別養殖業就業者数の推移

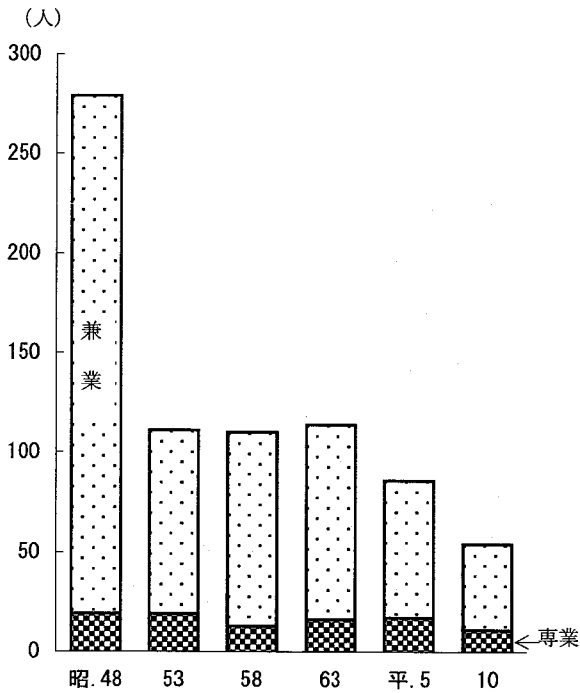
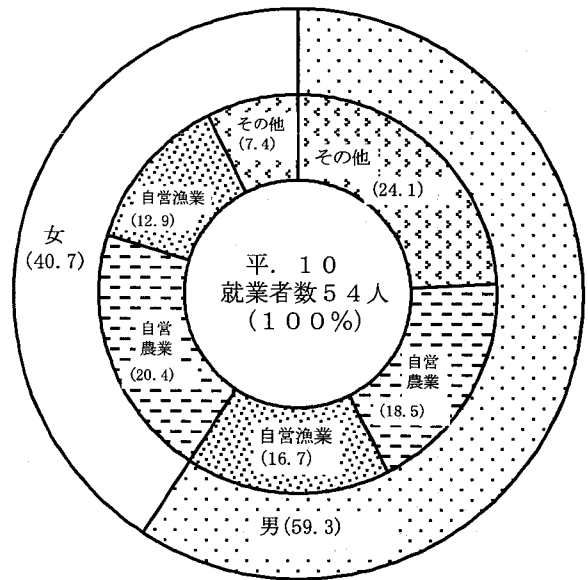


図68 主とする就業区分別養殖業就業者数の割合



＝男子就業者が大きく減少＝

養殖業就業者は、54人で前回に比べて32人（37.2%）と大幅に減少した。

これを専兼業別でみると専業は11人で前回に比べて6人（35.3%）減少し、兼業も43人で前回に比べて26人（37.7%）減少した。

また、男女別の就業者数は、男性32人、女性22人となっており、前回に比べて男性の減少率が42.9%と高くなっている。

表41 専兼業別・主とする就業区分別養殖業就業者数

単位：人・%

区 分	総 数	専 兼 業 別		男				女			
		専 業	兼 業	計	自営漁業	自営農業	その他	計	自営漁業	自営農業	その他
昭. 48年 (第5次)	279	19	260	195	41	99	55	84	15	62	7
53年 (第6次)	111	19	92	74	25	21	28	37	12	24	1
58年 (第7次)	110	13	97	78	18	28	32	32	10	18	4
63年 (第8次)	114	16	98	77	29	9	39	37	13	12	12
平. 5年 (第9次)	86	17	69	56	21	11	24	30	15	7	8
10年 (第10次)	54	11	43	32	9	10	13	22	7	11	4
(構成比)	(100.0)	(20.4)	(79.6)	(59.3)	(16.7)	(18.5)	(24.1)	(40.7)	(12.9)	(20.4)	(7.4)
10次-9次 増減数	△ 32	△ 6	△ 26	△ 24	△ 12	△ 1	△ 11	△ 8	△ 8	4	△ 4
10次/9次 増減率	△ 37.2	△ 35.3	△ 37.7	△ 42.9	△ 57.1	△ 9.1	△ 45.8	△ 26.7	△ 53.3	57.1	△ 50.0

4 養殖施設

(1) 養殖施設の概況

図69 養殖池総数と1経営体平均池数の推移

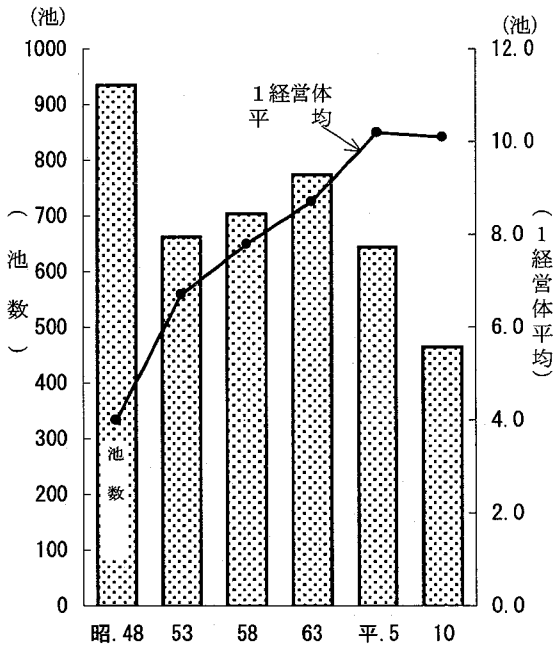
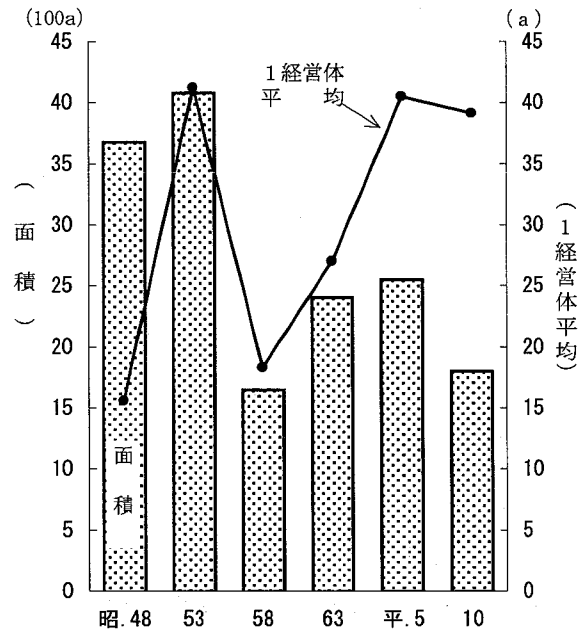


図70 養殖総面積と1経営体平均面積の推移



＝養殖池・養殖面積とも減少＝

養殖業経営体が所有する養殖池は464ヶ所、養殖面積は1,799 a となり、前回に比べてそれぞれ3割程度減少した。

また、1経営体平均でみると養殖池は10.1ヶ所、養殖面積は39.1 a でほぼ前回並みの結果となっている。

表42 養殖施設の概況

単位：経営体・a・%

区分	経営体数	養殖池数		養殖面積	
		総数	1経営体平均	総数	1経営体平均
昭.48年(第5次)	235	935	4.0	3 674	15.6
53年(第6次)	99	662	6.7	4 080	41.2
58年(第7次)	90	704	7.8	1 649	18.3
63年(第8次)	89	774	8.7	2 403	27.0
平.5年(第9次)	63	644	10.2	2 551	40.5
10年(第10次)	46	464	10.1	1 799	39.1
10次-9次 増減数	△ 17	△ 180	△ 0.1	△ 752	△ 1.4
10次/9次 増減率	△ 27.0	△ 28.0	△ 1.0	△ 29.5	△ 3.5

C 内水面漁業協同組合に関する統計

1 内水面漁業協同組合

図71 組合数の推移

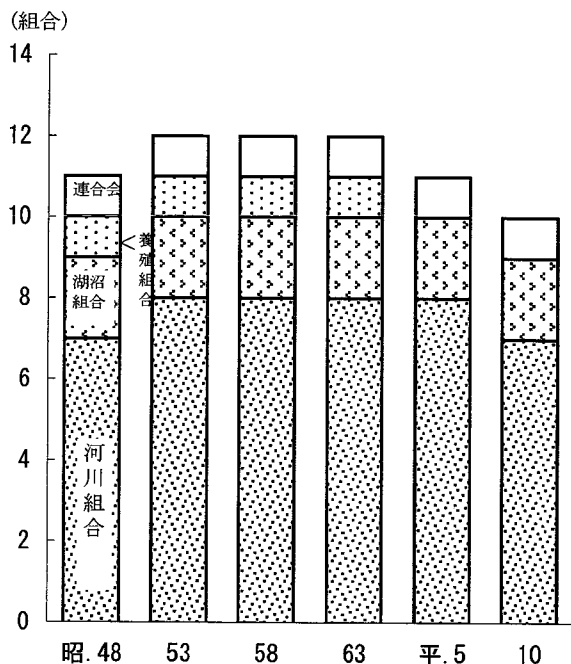
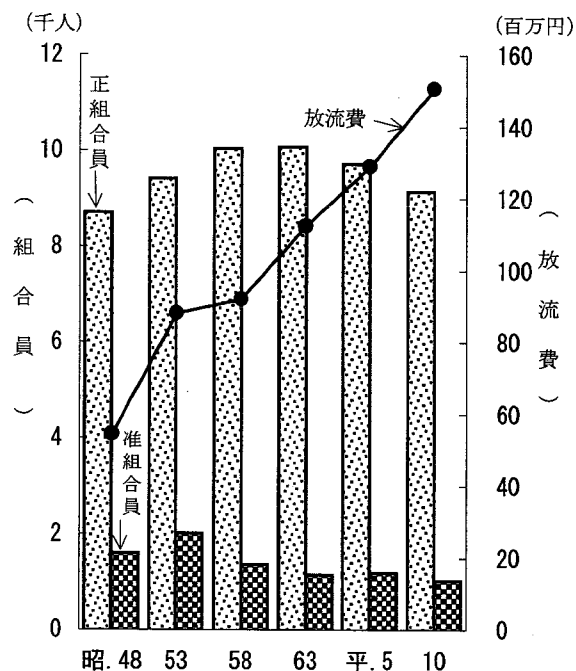


図72 組合員数と放流費の推移



＝河川漁協は7組合、湖沼漁協は2組合＝

調査対象となった組合は、水産業協同組合法に基づく内水面漁業協同組合が9組織、連合会が1組織で前回より河川組合が1組織減少した。

内訳は、河川漁業協同組合が斐伊川、神戸川、江川、八戸川、周布川、三隅川、高津川の7組合、湖沼組合が宍道湖、神西湖の2組合、連合会が島根県内水面漁業協同組合連合会の1組合である。

また、組合員数、放流費の動きをみると正組合員数は9,150人で、前回に比べて575人(5.9%)減少、放流費は1億5千万円で放流尾数の増加もあって、前回に比べて2千万円余り増加した。

表43 内水面漁業協同組合数及び組合員数と放流費

単位：組合・人・千円

区分	総数	単 位 組 合				連 合 会	正組合員数	准組合員数	放流費
		計	河川組合	湖沼組合	養殖組合				
昭.48年(第5次)	11	10	7	2	1	1	8 712	1 606	54 456
53年(第6次)	12	11	8	2	1	1	9 414	2 017	88 053
58年(第7次)	12	11	8	2	1	1	10 036	1 360	91 913
63年(第8次)	12	11	8	2	1	1	10 077	1 147	112 324
平.5年(第9次)	11	10	8	2	-	1	9 725	1 183	128 871
10年(第10次)	10	9	7	2	-	1	9 150	1 028	150 505
(構成比)	(100.0)	(90.0)	(70.0)	(20.0)	-	(10.0)	-	-	-
10次-9次 増減数	△ 1	△ 1	△ 1	0	-	0	△ 575	△ 155	21 634
10次/9次 増減率	△ 9.1	△ 10.0	△ 12.5	0.0	-	0.0	△ 5.9	△ 13.1	16.8

